

木製机、いすの採用にあたって

木のぬくもりを子どもの中に

旭川市立共栄小学校
教諭 沼田 和 秀



多目的スペースでの授業

1. はじめに

学校は、防災上の観点から、鉄筋コンクリート造りによる不燃化の建物が多い。

しかし、これからの学校は、多様な学習活動が行われるように工夫することが必要であり、それにふさわしいゆとりと温かみのある環境を整えることが大切です。

昨春、旭川市で64番目の小学校として開校した共栄小学校は、木材のもつ柔らかな感触、高い吸湿性などのすぐれた性質を生かし、施設の内装や固定された備品などに地場産の木材が大幅に導入

されています。

特に、キハダやナラ材などを豊富に使った多目的スペースは、一人一人の児童の個性を伸ばそうとする新しい学習の場として、その効果が期待されています。

8月に入って、市当局、教育委員会のご高配を得て、新設校では初めての木製の机、いすが1・2・3学年用として配備され、床部分に木材が使われている教室に、さらに一段と落ち着きのあるふんい気が醸し出されるようになりました。

自然の木肌を生かした机やいすは、児童の学習

や生活の面にぬくもりとうるおいをもたらし、児童の学ぼうとする意欲が高まることの一因となっています。

2. 新しい机、いすになって

子どもたちの感想

楽しかった夏休みがなくなって今日から気持ちも新たに2学期。久しぶりに教室から子ども達の歓声が聞こえてきました。よく聞くといつもの歓声とはちがっているようです。

今日から、1年生から3年生までの各教室に、新しい木製の机といすが入ったのだ。新しい机といすになって子ども達は大喜びです。2学期の始業式の日うれしいプレゼントとなったわけです。

新しい木の机、新しいいす。今までの机やいすとちがった感じで、さらに気持ちも新たにしてみようとする子ども達の目の輝きがまぶしく感じました。



新しい木製の机・いすになった二年生の教室

あたらしい木のつくえといす

共栄小 1年1組 佐渡 智明

2学期がはじまって学校にくるとつくえといすがかわってしまいました。ピカピカのすべすべでとてもりっぱなつくえでした。ちょうかいがはじまってこうちょうせんせい、「1年生から3年生までのみなさん、木のつくえといすは、どうですか。」

と聞きました。

開いたあと、また、こうちょうせんせいは、「らくがきをしたり、あなをあけないでください。」

と、はなしました。ぼくは、とてもりっぱなつくえだったので、うれしくなり、たいせつにつかいたいとおもいました。

木のつくえ、いすになって

共栄小 1年2組 西田加奈子

わたしは、木のつくえが大すきです。

とくに、学校のつくえやいすは、心をこめてつくってあると思います。だから、べんきょうするきもちがでます。

まえのつくえは、つめたくて、きたなかったし、いすは、すわるところがざらざらでジャージのふくらはぎのところが、ぼそぼそになりました。

いまの木のつくえは、せの高さをかんがえてつくってあります。わたしには、ちょうどいい高さです。

もうすこして2年生になりますが、あたらしい1年生がわたしたちのつかっているつくえやいすで、べんきょうするので、それまできれいにつかうつもりです。きれいなつくえやいすのほうが1年生はよろこぶとおもいます。だいじにつかいたいです。

1年生の感想のように、新しい机、いすになって、うれしい気持ち、そして、大切に使用する心構えが率直に出ています。

同じうれしさでも、2年生ではまたちょっとちがってきます。



木のベンチでの子どもたち(体育館前スペース)

たち、どうもありがとうございます。

木のつくえで、いっしょうけんめいべんきょうします。たいせつにつかいますので、また、いいつくえをつくってくださいね。

ほんとうに、ありがとうございました。

2年生になると、木のぬくもり、木のあたたかさを実感としてとらえ、そのうれしさから感謝の気持ちが生まれてきています。

その気持ちも、3年生になると次のように表れています。

— あたらしい木のつくえといす —

共栄小 2年1組 柏谷 栄里

この学校にきて、びっくりしました。

それは、つくえやいすやゆかが木で、できていることです。それに、ほかの学校にはあまりない木のできている広い「なかよしホール」(多目的スペースの名称)もあります。

まえのつくえは、てつみたいなのでさわったらつめたかったけど、こんどのつくえは、木のつくえなので、さわってもつめたくありません。いすも、まえのいすは、ざぶとんをつかわないといけなかったけれど、今、つかっているいすは、ざぶとんをつかわなくてもあたたかいからとてもいいです。木のゆかも工作などの時、ゆかにすわってもつめたくないのでもいいと思います。

つくえもいすもゆかも木のぬくもりがあっていいです。



木のベンチにすわって作品をみる子どもたち(廊下)

— 新しい木の机といすになって —

共栄小 3年1組 佐藤 学

新しい木の机といすになって、あたたかくて勉強がしやすくなりました。木の机は、かるく、それにがんじょうでぐらぐらしません。

このごろ、字が少しずつきれいになってきました。この前の参かん日の時、お母さんが、「木の机になってとてもいい感じよ。とてもよかったわ。」と喜んでいました。

なかよしホールのところの木のベンチもとてもすわりやすく、ベンチにすわってゆっくりと友だちの作品を見ることができます。床も木でできているので歩きやすくてつかれません。

この机で勉強していると気持ちもすっきりします。こんないい机を何日も何日もかけて、あせびっしょりになって作ってくれたおじさんた

— 木のいすとつくえ —

共栄小 2年2組 青木りょうこ

前のつくえよりいいところは、木のできていてつかいやすいところです。さわるとあたたかいし、つるつるしていてとてもいい感じです。

こんないいつくえをつくってくれたおじさん

ちにお礼をいいたいです。
この机といすで、いっしょうけんめい勉強を
がんばります。

木の机、いすを使って

共栄小 3年2組 油崎 あい

わたしたちの学校では、1年生から3年生まで木の机を使っています。木の机は、とてもきれいです。いすも、すわりごちがとてもいいです。

今までの机やいすは、とてもかたかったです。でも、こんどの木の机やいすになってからすわりごちがとてもよくなりました。見た感じもとてもきれいです。この木の机を使ってから、勉強が身に入るようになりました。漢字や計算がよくできるようになってきたのです。

参かん日の時、「きれいなりっぱな机ね。」とお母さんがいっていました。

新しくて、やわらかい感じがして、あたたかいこの木の机をいつまでも大切にを使って、こんど3年生になる人たちに気持ちよくわたせるようにしようと思います。

次のようになります。

落ち着いて勉強できる。
勉強がしやすい。
気持ちがよい。
きれいでいい感じがする。
すわりごちがよい。
あたたかい感じがする。
がっしりしていて、らくである。
木のおいがしていい。
春らしい感じがする。
廊下のベンチで、体育のあと休める。
軽くて、そうじがしやすい。
つるつるしていて、字が書きやすい。

アンケートの結果から、きれいだとかいい感じがする等の外見上からだけでなく、落ち着いて勉強できるようになったとか勉強しやすくなった等の回答から新しい木の机、いすが子ども達の学習意欲や学習態度にまでよい影響を与えていることがよくわかり、教育的効果をあげるのに寄与していることがわかります。

(2) 教師側から

木の机、いすの採用にあたって、教師側は、次のような利点をあげています。

落ち着きがある。
美しい。
やわらかさがある。
あたたか味がある。
光の照り返しがない。
吸湿性がある。
木目が美しい。
歩きやすく、足が冷えない。
木の床と机があっている。

新しい机、いすが教室に配備されるようになってから、木の床と机、いすが調和して、教室の中に落ち着きを感じられるようになり、あたたかみ

新しい木製の机、いすを使用するようになってから、字が上手に書けるようになったり、落ち着いて勉強することができるようになってきていることがよくわかります。

1年生から3年生までのどの子ども達の感想の中にも、木のもつ特性からくるうれしさや喜びの様子がよく表されています。

3. 木質材料採用による教育的効果

(1) 児童側から

子ども達の感想にも見られたように木の机、いすを採用するようになってから子ども達の学習面、情緒面及び運動面に教育的効果がみられるようになりました。子ども達へのアンケートの結果から子ども達の声をまとめると

のある木肌の特性が教室のふんい気にするおいをただよわせています。そのことが、子ども達に自然に浸透し、学習意欲を高める要因になっています。

また、床も木であるため、日光の照り返しもなく、精神的な落ち着きをかもしだしている。木のぬくもりのため、以前にみられたいすにかけられていたざぶとんも一枚も見あたらなくなったことから、すわりごちのよさがよくわかります。そのことも落ち着いた学習態度へと結びついていると思います。

教室ばかりでなく、木質材料を多く使用している多目的スペースや廊下のベンチなどでは、友だちと楽しく話し合っている姿が多く見られ、交友関係がさらに深まり、木のぬくもりが子ども達のきずなを一層深めるのに役立っています。机・いすそして、多目的スペース、廊下のベンチ、教室の床等の木質材料の採用によって学校の教育環境に、落ち着きとぬくもりを与え、子ども達の学校生活に潤いをもたらしています。

同時に、子ども達にこれらのよき環境をつくっていただいた関係者に感謝の気持ちを抱き、物を大切にしようとするやさしさが生まれてきています。

4. おわりに

旭川市内で最も新しい小学校に新しい机、いすが配備され、多目的スペースをはじめとして、そのほかの個所にも木材がふんだんに使用され、ぬくもりと落ち着きのある学校となっています。旭川市内は、もちろん、他市町村からの視察による外来者も多く、木のすぐれた特性に対する反響も大きい。

このようなよき教育環境に恵まれた子ども達に木のぬくもりのようなあたたかい心、物を大事にするやさしい心、美しい心に感動する心などの豊かな心を育てたいと同時に、がっしりしたりっばな机に負けない強く、たくましい心が育つことを念じています。